

読売理工医療福祉専門学校

2020 年度自己点検評価に関する評価報告書

2021 年 9 月 15 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員会による 2020 年度自己点検評価に関する評価報告書

2020 年度自己点検評価に関する評価報告書は、学校が、卒業生・保護者・地域住民・企業役員等の関係者を委員により構成された学校関係者評価委員会により、「学校が実施した 2020 年度の自己評価結果の報告」に対する評価を依頼した。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 学校関係者評価委員会委員

- ・渡部俊一：OB・理工専校校友会会長
- ・池上清美：保護者・放送映像学科 2 年生
- ・杉田明治：地域住民・文京区礪川地区町会連合会 会長
- ・中村孝之：団体等・日本建築衛生管理教育センター
- ・羽場宏祐：企業等・放送映像学科
- ・鹿毛信一：企業等・建築系学科
- ・小嶋 守：企業等・電気電子学科
- ・伊藤大輔：企業等・臨床工学系学科
- ・大庭尚子：企業等・介護福祉学科

(敬称略・順不同)

3. 自己点検評価に関する評価（評価点：5 点満点） 全体評価 4.38

評価に関して 5 段階（5 = 申し分ない・4 = 十分である・3 = 標準的・2 = 努力を要する・1 = (不十分である)）としている。設問 24 については総合評価ならびに教育活動・学校運営に関して忌憚のないご意見の記入とした。

[1] 2020 年度の取り組みに関する意見

(1) 教育理念・目的・育成人材像等 (4.38)

- ・保護者の視点からは現在でも適切と思われる。
- ・色々な、新しいテーマに学校として、取り組まれていると思う。
- ・自己点検評価ですが、身内にあまく見ることなく良いと考えます。
- ・読売式教育メソッドの一番に「人間力」を掲げ生徒に優しく寄り添った学校運営をされていると感じる。
- ・読売式教育メソッドもブラシアップに伴い、プロフェッショナル、マイスターを目標にした技術基礎力、コミュニケーション力、法令順守力、等人材育成に努めている。
- ・専門分野の知識とともに社会人としての自覚をもった学生を育てて頂きたい。

(2) 学校運営 (4.13)

- ・コロナ禍で入学生が減った。留学生が来なかった。来年度に期待する。
- ・学生確保の安定が必要。地域との交流を持ち、関連事業を強化すべき。
- ・コロナ禍での入学者の確保・授業運営・生徒の安全対策等、大変な時期にもかかわらず、対応している。

- ・ 評価項目内容が表にはあまり公表されることではないので、報告書の評価することが難しい。
- ・ コロナ禍の影響は残念ですが、しっかり運営されている。今後はコロナで実施出来ない地域との連携・協働を期待します。
- ・ 留学生の入国が制限されている。国内で高校新卒生の募集には文京キャンパスへの移転を生かした学生募集に関するPRが必要。例えば、新撮影技術ジャンルであるドローンカメラを操作できる授業等新規の内容をPRに使用する。
- ・ 学校が取り組んでいる学生の安全安心のキャンパス環境もPR。
- ・ 文京キャンパスの施設設備（レンタルスタジオ、リモート配信など）を活用した事業運用。
- ・ 学生確保が大事であるが、コロナ禍でアピールが難しい現状であるため、ホームページでのアピールをより強化されたい。

(3) 教育活動 (4.13)

- ・ 対面授業が出来ず、リモート授業。顔色を伺いながらの方が授業しやすい。
- ・ 評価を見てもほぼ適切と思われます。が、一方で、全教科職員の方々の授業時間数の分散化も必要と思われる。
- ・ 課外活動の取入れなど考えて欲しい。
- ・ 適切に評価されていると考える。
- ・ コロナの感染状況に応じた授業形態を手探りで探しながらも実施できている。
- ・ コロナ禍で出来ないインターンシップは次世代の技術者を育てるために必要であり、企業にとってもメリットがある事であり、実施出来るよう双方で考えた方が良い。
- ・ 基礎学力の低い学生を含めて興味を抱くようなドローンによる操縦撮影技術の実習などを全学科共通で取り入れてはどうか。初歩的ドローンの機材は1機10、000円程度購入できる。
- ・ 多種多様性が重要視されており、学科の枠を超えて他の学科とのディスカッションなどを取り入れて、色々な形で交流するとよいのではないか。

(4) 学修成果 (3.88)

- ・ 現場での実践不足
- ・ 本年度は特に社会情勢が大きく影響された様だ。
- ・ 昨年と同様にコロナ禍の影響が著しく受ける中でも頑張っている。授業（リモートなど）を適切に行っていると判断できる。
- ・ 教職員が大変努力していると判断したい。自己評価は、もう少し高い評価点があってもよいのではないか。
- ・ 退学率の微増があるがコロナ禍の影響もあり、学校や教職員の責とは考えられない。
- ・ 社会に巣立った卒業生の現状把握（出来ればヒアリングなど）が必要。そのためには在学中に学校（教師陣等）との親密感を育てる工夫の必要がある。卒業生が学校に気軽に訪問できる方法を検討してはどうか。
- ・ 就職率向上のためには何より早く動き出すことが大事である。読売グループや各関係者の伝も利用し、学生の能力にあった就職先を早く見極めて進めてはどうか。

(5) 学生支援 (4.00)

- ・ 修学支援制度を利用している学生46名。もっと増えると良い。
- ・ 評価から見ても、ほぼ適切に運営されていたと思われる。

- ・ 適切に評価されていると考えます。
- ・ 返済の必要の無い支援拡充を働きかけすべきではないか。
- ・ 学生の悩み（学費、就職、学業など）をフランクリーに打ち明けられる窓口は不可欠です。但し担当者の適性が求められます。
- ・ 留学生相談室、奨学金制度など充実している。
- ・ 退学理由の中で、学力不足と精神的なところはリンクしている場合があるようだ、なのでまず学力面でしっかりサポートすることが大事。

(6) 教育環境 (4.25)

- ・ 環境は素晴らしい。
- ・ 校舎施設をもっと有効に活用できればと思う。(本年度は大変な状況下で難しい状況だった。)
- ・ 適切に評価していると思う。
- ・ 施設は完備されているように感じる。学外の利用に関しては多くは今後の課題であるが、管理組合や地域にも協力してもらうためには理解が必要で今後一緒に考え進めていきたい。
- ・ 教育環境は充実している。
- ・ 文京区という立地で新校舎という環境は素晴らしいと思う。実習器材の有効活用をしてもらいたい。

(7) 学生の受け入れ募集 (3.63)

- ・ 留学生が来日できず入学生が減った。日本人を入学させる努力がもっと必要。
- ・ 現在の状況下では、留学生確保はとても難しいと判断される。就職率 100%であることを大いにアピールすべき。
- ・ コロナ禍の影響を著しく受け大変な時期だが、手を抜かず邁進されたい。Web オープンキャンパスなど良い報告に向いていると判断される。
- ・ 読売グループのメリットをもう少し生かした募集や、全国の高校への売り込みなど、学校の魅力を最大限に発揮した募集を実施すべき。
- ・ 学校の責任ではなく、コロナの影響、特にそれが留学生に影響が多くあるように思われる。また国内でも実習が必要な学科は特に
- ・ コロナの影響の中、留学生の受け入れは期待薄と考えられる。次年度の募集は早めのPRを含めたメディアによる活動などが重要です。
- ・ オープンキャンパスが難しい中、ホームページの充実を行う事が鍵となる。動画学校案内など、デジタル化でアピールするのが良いのでは。授業の多様性による教員の負担軽減を行って欲しい。

(8) 財務 (4.50)

- ・ やはり学生確保の安定が必要とされるところではないか。地域と交流を持ち、そのほかの事業も強化すべきと思われる。
- ・ 適切に評価されている。
- ・ 新型コロナウイルスの影響により、入学希望者の確保が難しい中、大変努力していると感じる。
- ・ コロナ禍の環境では、当分の間、留学生の入学数は期待できそうにない。次年度は500人を目標にしたい。

- ・ 文京区のパソコン教室の話があったが、立地条件を生かして地域の為に教室を何か開くことは財政の面でもいいと思う。

(9) 法令等の遵守 (4.25)

- ・ 高く評価する。
- ・ 適切に評価されている。
- ・ 70歳再雇用制度。
- ・ 授業の多様性による教員の負担軽減も考えるべき。

(10) 社会貢献・地域貢献 (3.38)

- ・ コロナ禍、地域貢献は難しい。少しずつ出来るようしてもらいたい。
- ・ やはり、コロナ禍のためいたしかたない事のように思える。
- ・ 移転後の地域貢献の盛り上げに期待する。
- ・ コロナ禍により活動ができなかったため自己評価が下がってしまう事は仕方がない。適切に評価されていると感じております。
- ・ いままでコロナ禍で満足に出来ていない。
- ・ 地域との交流推進のきっかけとして地域小学校との連携で新キャンパスのスタジオ等の見学会など実施してはどうか。(スタジオの体験実習が良いと思います)
- ・ 地域のパソコン教室など、地域に役立つことは素晴らしい。今後、地域で行事やイベントの開催が増えた場合は、積極的に参加してもらいたい。

[2] 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 (4.38)

- ・ 建築士専攻科、ケアキャリア養成科を廃科にし、放送映像学科の定員を増やした。今後も人気の学科を増やす等見極めが必要と思う。
- ・ 毎年課題とされている、除籍退学者の減少の策として、面談の機会を増やすべきだ。また、進路変更を避けるという点でも、テストなどを増やし、学生レベルも把握しておくことが重要。
- ・ コロナが終息し通常な日常が戻ってきたときに、さらに目標や計画に近づけるよう期待する。
- ・ 新しい場所に移動して1年目。さらに、コロナの影響もあり十分な準備もできないままの1年だったと推察されるが、新型コロナウイルス感染症は後数年続くと思われるため内容や方法の工夫が必要。
- ・ 地域社会とのコミュニティーの推進。学生とフランクリーなコミュニケーションが出来る校風環境の推進。新校舎の設備(スタジオ、医療設備など)を生かしたビジネス展開が必要。
- ・ コロナの感染対策は十分、緊急事態宣言が明けた今でも継続してしっかりと対策していることはとても評価出来る。これからは対面授業を増やししながら、学力の底上げをする事と、学生との対話を重視し、除籍退学率を減らす努力が必要。

[3] 自己点検評価報告に対する総合的な意見

- ・ コロナ禍での授業は十分に対策をして実施している。入学生については、留学生に頼るのも必要と思うが、この状況下では、日本人の学生募集に力を入れて入学を増加させる努力が必要。
- ・ 細かく報告されている。

- ・ 現在の時代にあった、リモート学習や実践的な教育など、実験実習の分割分散型対面上に進められると考える。もう一つとして、コロナかが落ち着く前に、実際の工事現場の見学など、実践授業を一部開始してはどうか。
- ・ 総合的に冷静に評価されていると感じます。
- ・ おおむね良好と判断する。コロナ感染症の蔓延という初めての環境の中、手探りで学校運営はご苦労の連続であったと思う。
- ・ 今のまま感染対策を継続的に行いながら、対面授業を増やし、学生の学力向上と精神的支援に取り組んで欲しい。また地域との交流を活発にすることも重要。

5. 2020 年度の重点目標

2020 年度の重点目標は以下としたい。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を確実にしながら、専門学校としての実践的な技術を身に付ける。学生の教育と人間力を併せて確実に教授できるように、感染予防策に努め、学生・教職員の安全を確保しながら、教育の質を落とさぬ教育運営を行う。
- ・ リモート授業等によるコミュニケーション不足による退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を 10%以下とする。

6. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、「2022 年度の間評価に対する意見・提案」と合わせ、次年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上